

ヨーロッパでの感染拡大に備えて

10月の中旬から一気に気温が下がり、西高東低の冬型の気圧配置となりました。11月になるともう木枯らしが吹いています。わが国では新型コロナの第5波の感染者が一段落しましたが、これから冬が近づくとつれて新型コロナの第6波が来るのではないかと危惧されています。

すでに冬の気温となったヨーロッパでは過去最大の感染者の増加が続いています。11月5日にはドイツでは新規感染者が1日で37,000人となり2日連続で過去最多となりました。ロシアでは11月1日に感染者が41,000人となり、これも過去最多です。感染拡大の原因となっているのはデルタ変異株とアルファ変異株の亜系統なのですが、ドイツからの報告ではともに感染力が強く、治療への抵抗性が高く、ワクチンが効きにくいとされています。ですからいずれはこれらの変異株がヨーロッパ全土に広がるでしょう。そしていつかは我が国へ侵入してくる恐れもあります。

わが国で第5波が収束したのはワクチンの普及のみならず、日本人だけが持っている特殊な酵素がウイルスの増殖を妨げたからだという研究結果が発表されました。国立遺伝学研究所と新潟大学の分析によると、日本人が持つ体内酵素がウイルスが増殖する際のコピーミスを増速させ、結果的に増殖を阻害することになったのではないかとされています。デルタ株は感染力が強いため増殖するスピードも速く、その際のコピーミスも多く発生します。通常はウイルスの中にコピーミスを修正する物質があり、正しくコピーするよう働くのですが、私たちの体の中にはその作業を阻害する酵素があり、その働きで修正が阻害され増殖が妨げられたと想像されています。

以前にドイツの遺伝学の研究所が日本人にはネアンデルタール人の遺伝子が人類の中で最も多く潜んでおり、日本人は人類最古の人種である可能性が高いと発表したことがありました。つまり日本人はネアンデルタール人の遺伝子のお陰で、他に類を見ない強い免疫力を持っている可能性が高いのです。しかし、その免疫力を維持し、発揮するには正しい生活習慣と食習慣が必要です。ヨーロッパからの変異株の侵入に備えて何をすればよいかは次回にご紹介します。3回目のブースターワクチンでは役に立たないばかりか、かえって害になるという論文も出ています。

福岡動物自然療法研究会会長 名越譲治